第三十二百五號　（日曜土）　夕刊　いわき民報　昭和十二年一月二十四日　（可認物便郵種三第）昭和十二年一月六日　（一）

いわき民報

一八三電話番地八四町田市平
巳克輝千　人行發兼人刷印兼編輯
く除を曜日月但　刊日
七十一部一円廿月ヶ一價定
所行發
社報民きわいわ

新警察署の定員決る

平ほか郡に八警察署が誕生

三月からの新機構に基く新警察署の配置定員等はきよう縣に開かれた初の公安委員會で決定をみたが、市郡關係自治警察等の定員案は左の通りであるが、市郡下では平南及び小名濱、湯本内郷、植田、勿來、錦、江名、四倉の一市八ケ町村に署が設置されることゝなつた、平市や植田等には國家警察もあり、結局二つの署が生れるわけである

□平署五一名（警視一名、警部一名、警部補二名）
□少名濱署　警部以下二四名
□植田署　警部補以下一〇名
□湯本署　警部以下一九名
□四倉署　警部補以下一〇名
□内郷署　警部以下二六名
□勿來署　警部補以下一四名
□江名署　警部補以下一〇名
□錦署　警部補以下九名

映畫館に傳す 宣

策一余窮署準基

平勞働基準監督署しよりは勞働基準法による給食が實施される、右は炭鑛勞務者の保健と出炭能率の向上を期するために厚生省榮養研究所、公衆衛生院、石炭廳がタイアップヤマ市の共同募金の現在成の勞務者その家族に合續は左の通りで合計三理的な給食をしようと十五萬、千五百四十圓小名濱町高等女學校第三期建築工事請負入札細目については事務當つているが管下三千七十二箇所中未提出作業報告書の提出は規定によつて昭和二十一年十一月末日迄となつ

委員長に本田氏

炭勞の深夜作業手當交渉に

炭勞常磐地方支部第二回闘爭委員會では去る二十日事務所に會同深夜作業手當交渉開始を決定、これが具体案等について協議したが交渉委員長には本田辰雄氏をせん任した

常磐で炭鑛給食

二月から試驗的に

常磐炭鑛東區の導に當るが期間は二ケ月間で、引續いて北海道、九州の炭鑛地區でも行うことになつているが常磐が全國のトツプを切るわけである

割當達成目鼻つく

市の共同募金

小名濱高女は三崎組へ

一七三萬圓で

臨時市會

自治警察職員任免問題等で

市では二十九日午後時から臨時市會を招集新設自治警察職員の任免その他の諸件を附議する

町村會議長協議會

二十九日平市湯殿山に結成

郡町村長會ではかねて萬九千百五十圓に對し準備中だつた町村會議長協議會をいよ〳〵擧行することになつた

生大豆粉配給

一人四百グラム

平食料營團では連合軍吾さんと五四二八番の神谷村中神谷佐藤信一の厚意による放出生大豆粉一萬キロが割當てられたので、近く一日分ずつ一人當り約週百グラムを配給することになつた、生大豆粉のけられるわけ

郵便料金値上げ

來月の十五日から

鐵道運賃の三月一日値行一圓二十錢が四圓又上げに先立つて二月十五圓にハガキ現行五十五日から通信料金の値錢が一圓五十錢乃至二上げをみることになり圓となる豫定である

内郷町映畫鑑賞會

内郷町映畫クラブでは一五日内郷町第二劇場にえい畫かん賞會を

百万圓増資

小名濱信組重役會

上遠野東海炭鑛では二たゞこの際不良建前から確定損益を左如く決定した（單位圓）

◎確定損（暫定評價損）總額九一、一九七、三四（内譯）
◎農林中央金庫出資暫定評價損一、〇〇〇、〇〇〇圓
◎縣農業會係官廳の出席のもとに全上一七、〇〇〇、二十六日勞務打合會を開く
〇〇〇日本發送電株式全上五四〇、〇〇〇東北興業全上一、五八〇、〇〇〇
◎豫勘定損益計算書期中ゆ本町では平稅務と共催で二十三日午前三四◎最終處理引當金一五、四五〇、〇午後一時からは上遠野〇◎確定益　〇　〇村が小學校で、それぞれ三、〇〇（内譯）◎れ所得稅確定申告に說明會を開いた

東海炭鑛に卓球部生る

上遠野東海炭鑛では二十四日午前九時から卓球部結成大會を開き鑛員對職員の卓球對抗試合を行う

四倉方部の事務研究會

四倉、草野、大浦、大野、神谷の一町四ケ村事務研究會は二十四日午前一時から四倉町役

勞働基準法適用事業主殿へ

平市及石城郡下に於て一人でも人を雇つてゐる方は勞働基準法適用事業報告書を昭和二十三年一月末日迄に當署へ必ず御提出下さい若し遲れますと五千円以下の罰金に處されますから御注意下さい（用紙は當署にあります）

平勞働基準監督署
（平市仲町二番地平市役所二階）

外科 木村將義 産婦人科 木村寅次郎

入院隨意
平市新川町一九（電一六四）

木村病院

二月上映の名畫

春の饗宴

郷 第二イワキ
内

リーダーズ ダイジエスト （2月號）
1月26日自由販賣
サキホンヤ
丸善書店
平二丁目TFF285

調理法と食べ方の一

食營當局の發表

大豆粉の性質

近く配給される大豆粉は蛋白質の缺乏の今日榮養上極めて尊いものだがその調理法をあやまれば代用食の意義も失いまた榮養價も失うとあつて平食營ではこの一般を左のごとく發表した調理法を掲げる前に

先づ大豆粉の性質を述べると火が通りにくいのと加熱時間を充分にして全體によく熱が通る様に氣をつけ、火の良く通らないものを食べたり量を多く摂りすぎたりすると下痢するから注意されたい、

小麦、玉蜀黍粉と性質が違つて蛋白質に富んでいることは前に述べた通りだが、この特性を利用して調理せねばならない調理法としてはパンお煉り、すいとん、短麺（ほうとう）寄せ豆腐、納豆、みそ汁物、サラダ、代用乳、飲物並びに菓子等々あるが一般的に調理の簡單で材料の、割合は任意だが、大豆粉だけでも出來ないことはないこのときは加熱時間は少し長くしなければならない、次にすいとんは大づ粉一合、熱ゆ九勺、野菜汁七大豆こに熱ゆを注いで煉りこれを適當に丸めて沸とうした野菜汁に落して浮び上るまで火にかける、サラダは大豆こ五勺に水一合、塩、す、胡しよう、辛子適宜野菜適宜あいばいし大豆こを油で輕くいつて水と塩を加えてのばして火にかけよく煉り、冷めてからすを少しずつ加え胡しよう、辛子等で味を調へこれを野菜に合える

一等二本の大當り

平局賣出しの割增定額貯金

舊冬全國各局から賣出はこの大當りはじめの抽籤は去る二十日行われたが、平局からの賣出し中に十等二本、二等五本、三等三十本、四等九百二十八本の大當りが出た、この一等の幸運者は五〇八一番の夏井村山崎の星野忠さんと五四二八番の神谷村中神谷佐藤信一さんの二人、星野さんは全國放送の聽取出來るラジオ一台、佐藤さんは待望の自轉車が授けられるわけ　同局で

金田キタの三名は江

各町で鮮魚十二貫を仕入れ月見町月見橋付近までのところを又市内南町コーライト業某（四〇）は水戸村宇澤渡から木炭百俵を一俵百圓の割で買受け自宅に運搬中を

市の所得稅確定說明會

納稅の完璧を期するため特に平窪方面は二十五日市醫會に所得稅の確定申告非戰災新制稅について說明會を開く

いわき寸言

◎ゴマをするもの、すられて喜ぶもの、こんな世間は進歩がないだがこのゴマを喜ぶものゝ何と多いことか◎利のないところに人間が集らず、理非善惡のお客さんたちは二のつぎ一これが日平しよ各檢門所での二本人の本然の姿だつた日目の二十二日取締網かに掛つたものはつぎの◎食品のヤミはまだ知れたもの、もつと大きな新潟縣北蒲原郡南濱ヤミをなぜ見逃すか村有田榮吉、同エサー大衆の聲のまゝにネ

國寶白水阿彌陀堂
—付ミロク澤の見學記—

③

史談會員　鈴木光四郎

片寄平藏の功績

（建碑趣意書による）

片寄平藏は文化十年（紀元二四七三年）二月十五日石城郡大森村に生れた。現在の大森村大字浦村大森である。故に大森平藏とも云はれるのである。父平藏は石炭を大規模に發掘すべきであると彼に忠告した。父平藏は庄兵衛と云い叔父利兵衛のることを決心して郷里に歸り養子となり材木商を業とした。知人高崎今藏に之を話した。

嘉永、安政の頃に江戸に行き、即ち下流に在るものは必ず上流に在る。石炭は必ず新川の豪商明石屋こと渡邊治右衛門や大阪屋庄之助と取引をした。明石屋は良質の安政二年（紀元二五一五年）と信じて二人は山間僻谷に探商用のため江戸に行かうとし求めて遂に三箱岳（湯の嶽て爭の南の新川の流れの中に）の東北に在る白水村のミロ黒石數個を發見した。彼は之ク澤に於て石炭を發見した。

を江戸の明石屋に見せ鑑定してもらつた。明石屋は良質の片寄平藏は文化十年（紀元石炭であり黒船の燃料として二四七三年）二月十五日石城その需用が增大するから石炭郡大森村に生れた。現在の大を生産することに全力を盡すべきであると彼に忠告した。父平藏は石炭を大規模に發掘すは庄兵衛と云い叔父利兵衛のることを決心して郷里に歸り養子となり材木商を業とした。知人高崎今藏に之を話した。嘉永、安政の頃に江戸に行き、即ち下流に在るものは必ず上豪商明石屋こと渡邊治右衛門流に在る。石炭は必ず新川の や大阪屋庄之助と取引をした上流である白水川附近にある安政二年（紀元二五一五年）と信じて二人は山間僻谷に探商用のため江戸に行かうとし求めて遂に三箱岳（湯の嶽て爭の南の新川の流れの中に）の東北に在る白水村のミロ黒石數個を發見した。彼は之ク澤に於て石炭を發見した。

附近の山は山膚剝脫して石炭が露頭となつていた。この炭脈をたどつて更に川平、藤原小野田、宮方面にも石炭があることを察知した。二人は踏査と共に相擁して踊び合つたのである。然しながら白水村は當時湯長谷藩領であつて所謂領分違いであつた。彼は白水村の大越甚六氏と相談し湯長谷藩主の許可を得たのである。更に平の加納作次郎も此事業に參加した。その時の願書は

湯長谷様願書下案作恐以書次の通り願い出た。

付奉願上候白水村がミロク澤石炭製油願人御府内

四日市住所紀州様御用達明石屋治右衛門代平藏奉願上候事

右者今般白水村がミロク澤に石炭頂戴奉願上當巳の五月より五ヶ年之内右地所小屋場迄に釜場とも三畝二十六歩御拜借仕り石炭製油仕度奉願上候

尚年限中御被仰上納之儀に御座候へば何卒御慈悲を以て願之通り被仰付被下置候はば其仕合に奉存候

御府内　明石屋治右衛門代

大森村　願人　平藏

願出世話人　加納作次郎

安政四年五月

江戸御役所

更に大森村の領主等前書には

牧野越中守領分奥州岩城郡大森村百姓平藏奉願上候私儀石炭製納仕候處同岩城郡内醫揖齋守（湯長谷藩主）御領分白水村に石炭夥敷御座候に付ては右御領主様より私江御任せ相成當時石炭と共に石炭の販路を開いたともいう）丁度平藏主安法製油仕り罷在候

然處追々異國御交易被仰出あつた。安政四年石炭油（コールタール）をミロク澤のあ合体に活躍していた頃であつた。

奉承知候間右石炭御交易御用にも相成候はば私江被仰付被下置度奉願上候

並に磐城鮫延鉱業權起父を置いたので磐城石炭資上げの命を受けた。彼は石炭御用御交易相成候はば御用被仰付下置候得ば難有仕合奉存候此段偏に奉願上候　以上

牧野越中守領分奥州岩城國大森村　百姓　平藏

外國奉行様

安政六年三月

以上のような願書によつて當時をしのぶことが出來るのである。

彼は石炭一俵について銀一匁を上納し江名の中の作上り船に積み江戸に送つて明江戸の牧野越中守屋敷で病沒した。（或は資料の少ない磐城地方である平泉の觀自在王院附近と訂正します。

安政五年幕府は軍艦操練所を置いたので磐城石炭資上げ教を受けた有名な歌順和尚が住職であつた由緒ある寺であり光明寺の柿の木の下に在ぶことも有意義な事と信ずる。將來のために常に完成されなかつた終の頁を破いて白い餘白にこう書きつづつた。

「わが戀の終らさるごとく、この曲も又終らざるべし」

（二十二年一月二十日記）

【訂正】二十二日四段九行目

末恐しスリ少年

伊達郡川保町字河原町木田勝夫（四）假名は先き頃から兄姦直（三）假名と共に湯本町某旅館に宿泊中だが、兄が閣商賣で常に不在なところから小遣錢に窮し平市内で露天見物の客を專門にスリを働き遂に平しよに檢擧された。去る十八日午後一時頃市内三丁目露天商付近で女客の手提袋から現金四百五十圓在中ゴム折財布をスツたのを手始めに二十二日午後一時頃平館内で觀覽中の二十五、六才位男のオーバーからタバコケースを、その足でまた三丁目露天商を見物中の平えき軍掌區勤務田久富雄さん（二八）のズボンから手際よく鎖をはずし懷中時計をとりつづいて二十七、八才位の男客から同樣懷中時計をスリこれを平えきで知り合つた湯本町えき前田邊眞二（二三）ー假名

評畫映

女優

—内郷第二イワキ上映中—

好闘文協文藝部　能谷功

この映畫を見て先づ第一に感じるのは、演出力の強靱さであり、休息である。

衣笠も『或る夜の殿樣』で曼いスランプから起上りの氣配を見せたが、それは單なる氣配でなかつたのが明瞭に頷ける。

思へば日本映畫も從來に比べ、その視野は著しく廣くなつたものだ。それはアメリカ映畫の影響が多いかもしれぬ。があくまで此の傾向は日本映畫の力一杯の誇りといつても好いであろう。

この映畫も日本映畫の一頂點を示すものである。

衣笠に助けられた久板榮二郎のシナリオは二三の不滿な點があるが、それが全篇に影響する程のものでは無い衣笠の力倆は敢て言はずとも御存知であろうから省略する。

山田も今迄の穀から思つた。その中で際立つて居たのは高山と石い。

音樂効果も相當なものだ。といい映畫が日本映畫にも現れたとすると我々はなにも言

男女同權

配炭公團常磐支團婦人部長　大谷ミチ

事です

私達の地位、環境が焦點を失つているのをわすれて權利を呼び、義務をわすれがちではないでしようか、私達はこゝで私達自身の足元から確實にこれを摑む爲に

終戰以來、男女同權ということが私達の凡ゆる機會に論ぜられております、この言葉は誰に誰でも知つていることですが、知つていながらむづかしく論議されているところに、この雜點が含まれていると思います

私達がこれを婦人の問題として考えます時に、最後に行つて突當る壁は新しいこの原則を操り乍らも私達お互に持つている意固地な頑さと、男女間に未だ根強く殘つている古さに依つて婦人の權利、義務の焦點が消されてしまう

しい樣な處もあつた。

土方も始めての映畫出演だというが、立派かつた。役の上では山な演技振りである。同田の兄でもあれではまに兒應えのある映畫に芝居人でも井上正夫當りは芝居息が濃いがる。

筋の發展に「カーチユシャの復活」や「死とその前後」のピラを

弱さを基礎に認識してお互に信念と誠意とを以つて、一日も早く完成しなければならないし、古きを育んできた歴史と、古物的概念に對しては日常生活、或は組合生活等種々の機會に於て個人的な立場又は同志と共に改革斗爭を續け打破しなければならないと思つております

民主々義生活の日未だ淺い現段階に於て私達は、此の兩斗爭を通して女性に立關する眞の權利義務を認識しこれを踏台として、男女同權のラインについて生活を進めたいと思います

☆ストオリー

十九世紀の初期のウイーンに珠玉の樣な名曲をまき散らした樂聖フランツ、シューベルトは身は貧しく質屋通いは絶えなくとも心は王侯の如く豊かであつた。或日彼は友達の紹介でウイン社交界の大立物であるキンスキイ侯爵夫人邸の演奏に出演することになつた。

やがてシューベルトは立派なピアノを與へられて彼の新作を彈き初めた。

一座は水をうつた樣シューベルトは魂をこめて彈き進んだ。曲が最後に近づいてあの美くしいモチイフの浪が後から後から盛りあがる所迄來た時だつた。突然シューベルトは高らかな少女の笑聲を聞いた。音樂に對する何んという冒瀆シューベルトは、はたとピアノの手を止めた。ことには畫顏の花の如く美くしい少女が自からの笑聲にびつくりして肩をすぼめていた。

其後シューベルトは口短調交響曲を幾度も作曲家と結こんするのはいつの代にも何所でも許されないことであつた。二人はへだてられた。そしてカロリーネは無理に侯爵と結こんをされた。その後のシューベルトは初めて完成した曲を、カロリーネを前に痛い戀しい音を思い出を持つて彈き始めた。曲が最後に近づいてあの美くしいモチイフが浪にのつてくる所になつた時又高い聲に妨げられた。見れば花嫁のカロリーネはあの時と同じ樣な白い裝いの儘心の痛みに耐へ兼ねて氣を失つたのである。

シューベルトは靜かにピアノの蓋をした。そして彼女のために遂に完成されなかつた終の頁を破いて白い餘白にこう書きつづつた。

「わが戀の終らさるごとく、この曲も又終らざるべし」

樂響交成完未

寶東平一日27

映畫紹介

LEISEFEHENMENELFIDFR

東寶第二イワキ電話一番十

刮目せよ！

東寶の總力篇

熱論せよ！

長篇！

女優

明日の日曜日は是非…

日本映畫界に放つた不滅の山田五十鈴の神技

門專買受

衣類。洋服。貴金屬

書畫時計高級家具その他

平市大町通り

會商木鈴

目種營業

家具建具及机用務事・具

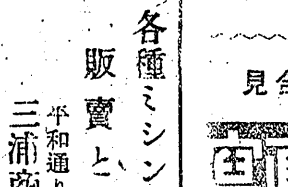
一般木工製品類製造

社會株式工木平

本社　平市田町26電平71.455.772

工場　平市鹿宣町13　電（平389）

一品定檢級



寶電球

所作製子硝平

平市田町五一四・一七二七

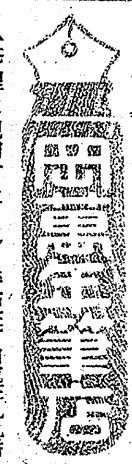
本社電話　六二

高級ライター

數種入荷

斯界の最高ポイント

高級プラチナ萬年筆　販賣中



▲修理は親切丁寧に

平市三丁目電三九九番

科内
科小兒
科外

若松醫院

若松信吾

小野彌久

（入院室完備）

平市大町二三

電五〇五番

ントネーマパ

一寸出掛けてもパーマネントは休まず

平市大町通り

徒弟一名急募

メイ牛山門下

永山ツル子

平市田町六八

卓球入ハ

御好評を感謝致します

ラバーバット・公認球……

良いものが揃つております

福島縣卓球協會配給店

ヤマカ運動具店

平市二丁目電六〇五

成完オチタス新

般一他其禮婚合見

館光三八王

能可影撮も日休電

り通大町日前驛市平

目軒三り隣東社報民きわい

各種ミシンの販賣と修理

平和通り

三浦商會ミシン部

電八六四番